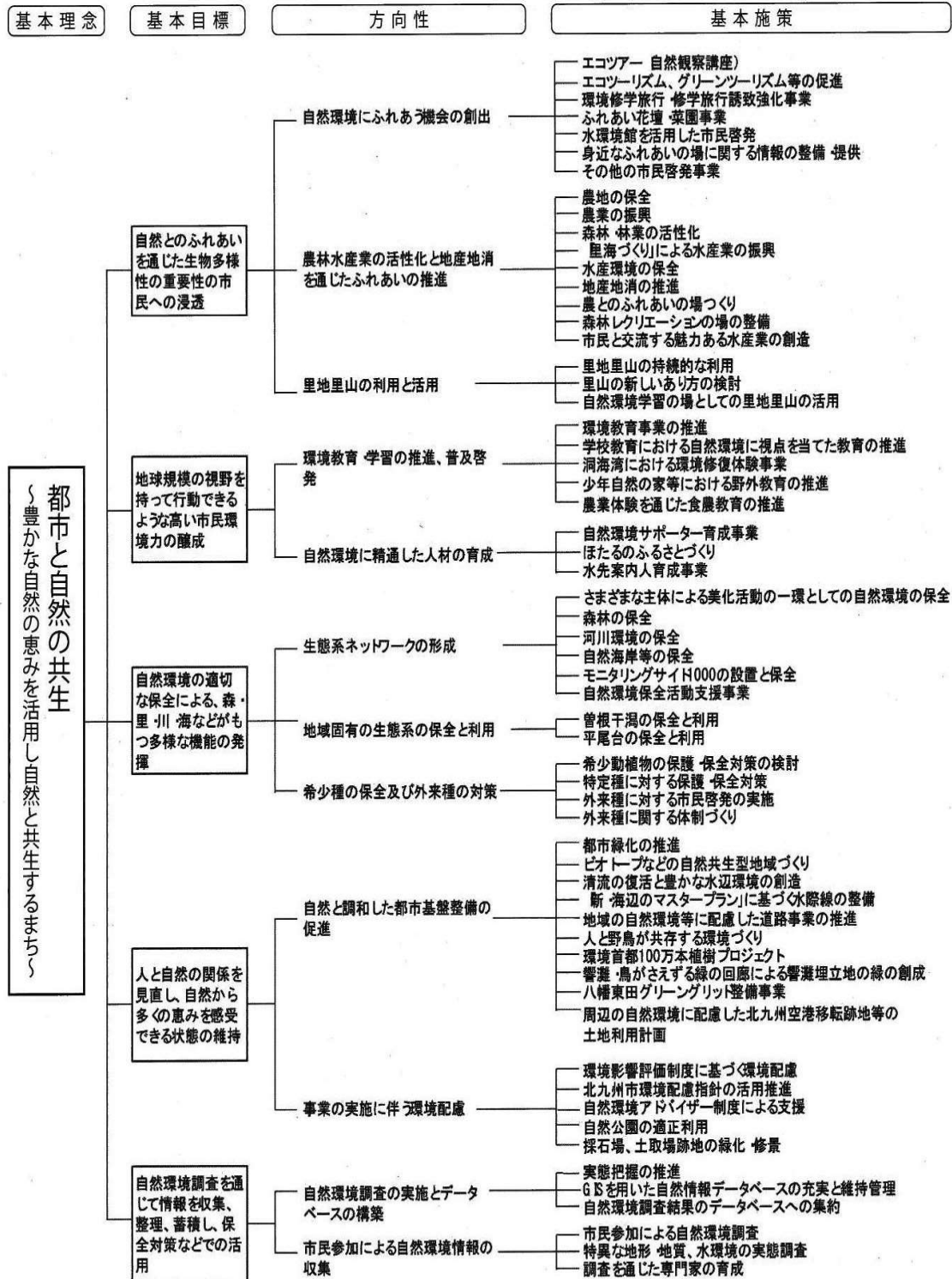


第2次 北九州市生物多様性戦略進捗評価報告（平成30年度実績）について

1 戦略の全体像（体系図）

2015年度からの10年を期間とした本戦略は、「都市と自然の共生」を基本理念とし、5つの基本目標を定め、基本目標ごとに方向性、基本施策を掲げている。



2 戦略の推進に向けた数値目標

基本目標1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	人	6,500 (2020)
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	人	4,000 (2020)
3	自然環境体感ツアーの参加人数	人	500 (2019 累計)

基本目標2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	校	25 (2024)
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	人	4,000 (2020)

基本目標3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	自然環境保全に取り組む団体への支援件数	件	10 (2024)
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	人	約 2,000 (2024)

基本目標4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	環境首都 100 万本植樹プロジェクトによる植樹本数	本	1,000,000 (2024 累計)
2	市街地(市街化区域)の緑の確保	%	9.5 (2020 累計)

基本目標5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	ベッコウトンボ市民調査実施回数	回	3 (2020)
2	曾根干潟における生物調査の実施	回	4 (2020)

3 補助的な指標による評価について（平成 28 年度～令和元年度市民意識調査から）

毎年実施されている市政評価において、生物多様性戦略に特に関係の深い市の政策（「自然環境の保全と自然とのふれあいの推進」、「公園の整備など、緑のまちづくりの推進」）の評価は、全 34 項目中 30 位（平成 30 年度）と 4 位（平成 30 年度）となった。

以上から、緑のまちづくりについては市民から既に高い評価が得られている一方で、自然環境保全や自然とのふれあいについては、他の環境分野と比べても、市民から高い評価を得られておらず、今後更なる取組の推進が必要である。

（表）市政評価の経年変化（評価）抜粋

調 査 項 目	（順位）と平均スコア			
	H28	H29	H30	【参考】 R01(中間)
15 公園の整備など、緑のまちづくりの推進	(4) .387	(3) .445	(4) .405	(5)
30 ごみの適正処理とリサイクル	(2) .551	(2) .468	(2) .504	(2)
31 大気・騒音・水質などの環境保全	(7) .203	(14) .136	(12) .143	(10)
32 地球温暖化対策、省エネ、再生可能エネルギーの推進	(11) .159	(19) .089	(16) .121	(21)
33 自然環境の保全と自然とのふれあいの推進	(26) .046	(33) .029	(30) .037	(31)

環境

2 SDGs の観点からの評価

○環境基本計画（環境首都・SDGs 実現計画）から見た生物多様性戦略と SDGs の関係性

環境基本計画（副題：環境首都・SDGs 実現計画）においては、第 2 次生物多様性戦略の内容も盛り込み、SDGs の 17 のゴールとの関係性を整理した上で、環境政策の観点から SDGs の実現を図っている。

環境基本計画と第 2 次生物多様性戦略、及び関連する SDGs を整理すると、本紙裏面（図）のとおりである。環境基本計画の進捗点検と生物多様性戦略の進捗点検を連携して実施し、生物多様性戦略の基本施策ごとに、推進が可能な SDGs のゴールを整理している。

（裏面（図）生物多様性戦略と環境基本計画、SDGs について）

(図) 生物多様性戦略と環境基本計画、SDGs について



4 5つの基本目標ごとの進捗状況（2018年度）



基本目標1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

（1）数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2018年度 (H30)実績	2017年度 (H29)実績	2016年度 (H28)実績
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	6,500人 (2020)	4,512	4,285	5,376
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	4,000人 (2020)	4,659	4,476	4,819
3	自然環境体感ツアーの参加人数	500人 (2019累計)	479	312	163

（2）方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性1 自然環境にふれあう機会の創出（施策数：7）

- ・「エコツアー（自然観察講座）」では、響灘ビオトープを活動の場としたガイドツアーや、自然ネットの協力のもと「自然体感ツアー」を開催し、自然とふれあう機会を提供。
- ・「エコツーリズム、グリーンツーリズム等の促進」では、一般市民を対象にした環境コンシェルジュ主催の「ドコエコ！ツアー」を開催したほか、環境学習関連施設等の情報を取りまとめた施設案内冊子や、小学校高学年向けタブロイド誌の発行・配布した。
- ・「その他の市民啓発事業」では、長野緑地における農業体験教室を開催し、2,070人の参加があった。

方向性2 農林水産業の活性化と地産地消を通じたふれあいの推進（施策数：9）

- ・「農地の保全」では、環境に配慮した農業に取り組んだ。
- ・「森林・林業の活性化」では、私有地の荒廃した森林の間伐（45.52ha）を実施。
- ・「水産環境の保全」では、市内沿岸域に藻場を1箇所造成、市内漁協が種苗放流を実施。漁業者等が藻場等の環境保全活動（食害生物（ウニ類）の駆除等）を5箇所を実施。
- ・「地産地消の推進」では、「農林水産まつり」「かき焼きまつり」等のイベントを通じて、市内食材のPRを積極的に行った。

方向性3 里地里山の利用と活用（施策数：3）

- ・「里山の新しいあり方の検討」では、竹林の維持管理のため、142tの竹が搬出された。竹等粉碎機の貸出件数は17件となった。

（3）環境局による基本目標1の進捗状況評価

数値目標については一部進捗に遅れがあるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。



基本目標 2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

(1) 数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2018年度 (H30)実績	2017年度 (H29)実績	2016年度 (H28)実績
1	小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	25校 (2024)	22	21	22
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	4,000人 (2020)	4,659	4,476	4,819

(2) 方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性 1 環境教育・学習の推進、普及啓発（施策数：5）

- ・「環境学習事業の推進」では、環境首都検定の受験者数が 4,520 人となり昨年度に引き続き、過去最高となった。(H29：4,320 人)
- ・「学校教育における自然環境に視点を当てた教育の推進」では、131 校が環境教育を実施し、安屋分校を除くと実施率 100%となった。(安屋分校は小学校 2 年生までしか通わない。)
- ・「農業体験を通じた食農教育の推進」では、小学校への児童・先生を対象にした食や農業の出前授業や体験活動を小学校 16 校 907 人に対して行った。

方向性 2 自然環境に精通した人材の育成（施策数：3）

- ・「ほたるのふるさとづくり」では、市民を対象として、ホテルや水辺環境について学ぶ学習会「ほたると水辺の環境学習会」を年 5 回開催。(参加者：96 名)
- ・「自然環境サポーター育成事業」は、一部事業への関与のみに留まっている。今後は、自然講演会や植樹会等の既存事業に対して、自然環境サポーターの積極的な関与を目指し、北九州市自然環境保全ネットワークの会などの意見を集約し、新たに自然環境保全に精通した人材を育成する方法の検討を進めていく。

(3) 環境局による基本目標 2 の進捗状況評価

数値目標については進捗に多少の遅れがあるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。



基本目標3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

(1) 数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2018年度 (H30)実績	2017年度 (H29)実績	2016年度 (H28)実績
1	自然環境保全に取り組む団体への支援件数	10件 (2024)	14	12	11
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	約2,000人 (2024)	約2,700	約2,700	約2,600

(2) 方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性1 生態系ネットワークの形成（施策数：6）

- ・「さまざまな主体による美化活動の一環としての自然環境の保全」では、「クリーン北九州」まち美化キャンペーン」及び「市民いっせいまち美化の日」を定め、市民による地域の道路、公園、河川、海浜等のいっせい清掃を実施。まち美化ボランティア清掃参加者数は130,181人となった。
- ・「河川環境の保全」では、景観や生態系の保全等その周辺の自然環境保全に努め、これらの環境機能と調和のとれた河川整備を進めており、市内にて36,200mの「環境に配慮した護岸整備」を実施した。(H29：35,900m)

方向性2 地域固有の生態系の保全と利用（施策数：2）

- ・「曾根干潟の保全と利用」では、環境省のモニタリングサイト1000のほか、市による曾根干潟での環境調査（自然環境把握、過年度資料整理）を実施し、情報を蓄積。また、曾根干潟の自然環境及び生き物の生息状況等をまとめたパンフレット及び看板を作成した。
- ・「平尾台の保全と利用」では、豊かな自然を観光資源のひとつとし、市内外からの誘客を図っている。H30年度は、首都圏や新幹線沿線都市の旅行会社等に対し339件のセールスを実施し、観光客数（動態調査結果）は、2319.4万人となった。

方向性3 希少種の保全及び外来種の対策（施策数：4）

- ・「外来種に対する市民啓発の実施」では、ヒアリ・アカカミアリの防除の状況について、市HPで広報した。
- ・「外来種に対する体制づくり」では平成29年10月に特定外来生物の「ヒアリ」が市内で確認されて以降、平成30年度も環境省や福岡県と連携して防除およびモニタリング調査を継続して実施。

(3) 環境局による基本目標3の進捗状況評価

数値目標については目標を大きく達成しており順調に進捗している。方向性ごとの主な施策の進捗状況についても内容に応じた取り組みが推進されている。そのため、**基本目標の達成に向け順調に進捗している。**



基本目標 4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

(1) 数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2018 年度 (H30) 実績	2017 年度 (H29) 実績	2016 年度 (H28) 実績
1	環境首都 100 万本植樹プロジェクトによる植樹本数	1,000,000 本 (2024 累計)	717,645 本	704,724 本	678,186
2	市街地（市街化区域）の緑の確保	9.5% (2020 累計)	8.3	8.3	8.3

(2) 方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性 1 自然と調和した都市基盤整備の促進（施策数：10）

- ・「新・海辺のマスタープラン」に基づく水際線の整備」では、海辺利用促進会議を開催（平成 30 年 8 月）し、専門家からの意見聴取を行ったほか、取り組みの進捗管理などを行った。引き続き H32 年度の目標年次に向けた取り組みを行うとともに、社会経済・市民意識の変化、施策の進捗状況を踏まえてマスタープランの改訂を行う。
- ・「環境首都 100 万本植樹プロジェクト」では、「みんなで植えれば 100 万本」を合言葉に、15 年で 100 万本を目標として、市民・NPO・行政など様々な主体が市内各地で植樹を実施しており、H30 までの推計植樹本数は 717,645 本となり、順調に推移している。
- ・「響灘・鳥がさえずる緑の回廊による響灘埋立地の緑の創成」では、緑の回廊植樹会を開催し、約 1,500 人の参加者により、約 5,500 本の植樹を実施したほか、10 月に植栽場所の草取りイベント（参加者約 90 人）、11 月に、NPO、企業と協働で市民向けの学習会を開催。

方向性 2 事業の実施に伴う環境配慮（施策数：5）

- ・「環境影響評価制度に基づく環境配慮」では、環境影響評価法及び北九州市環境影響評価条例に基づき事業者が行う環境影響評価にあたり、環境影響評価審査会を開催し、環境保全の見地から適切な意見の提出を行っており、H30 年度は、環境影響評価審査会を 3 回開催。環境保全の見地からの意見の提出は、方法書 3 件、準備書 2 件となった。
- ・「北九州市環境配慮指針の活用推進」では、本市の公共事業を対象に、自主的な環境配慮を促す「環境配慮点検制度」の運営等を行っており、H30 年度は、31 件の公共事業（平成 29 年度分）について点検を実施した。

(3) 環境局による基本目標 4 の進捗状況評価

数値目標については進捗の遅れやペースの鈍化が見られるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況についても内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要。**



基本目標5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

(1) 数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2018年度 (H30)実績	2017年度 (H29)実績	2016年度 (H28)実績
1	ベッコウトンボ市民調査 実施回数	3回 (2020)	3	3	3
2	曾根干潟における生物調 査の実施	4回 (2020)	6	8	7

(2) 方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性1 自然環境調査の実施とデータベースの構築（施策数：3）

- ・「実態把握の推進」では、響灘ビオトープでのベッコウトンボ市民調査（3回実施）や市による曾根干潟での環境調査（自然環境把握、過年度資料整理）、環境省のモニタリングサイト1000での調査（年2回）を実施。蓄積したデータの活用方法として市民参加型の保全活動やツアー型学習会など、エコツーリズムの推進を検討している。
- ・「GISを用いた自然情報データベースの充実と維持管理」では、動植物分布情報の一元管理や市民への公開を容易にするため、「自然環境情報GISデータベース」の構築に取り組むべく、H29年度に引き続き、情報の整理（希少種と位置情報）を行った。今後は、希少種や分布情報のデータ整理、調査結果集約に向けた庁内連携及び共通様式の作成を検討。

方向性2 市民参加による自然環境情報の収集（施策数：3）

- ・「市民参加による自然環境調査」では、響灘ビオトープでベッコウトンボの市民参加の調査を実施。3回で延べ61人の市民が参加。
- ・「特異な地形・地質、水環境の実態調査」について、本市の代表的な自然環境拠点である平尾台や曾根干潟の自然環境の特徴や現況、市内の希少種の生息状況を把握・整理すべく、H30年度以降、現地調査を実施予定。

(3) 環境局による基本目標5の進捗状況評価

数値目標については目標を大きく達成しており順調に進捗している。方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向け順調に進捗している。**

総合評価

- ・ 数値目標（11項目）のうち8項目で目標を達成した。
- ・ 60の基本施策において、基本目標の達成に向けた取組みを推進している。
⇒第2次北九州市生物多様性戦略は、おおむね順調に進捗している。

5 本戦略とSDGsのゴールの関係

SDGsのゴール		本戦略 基本施策との関わり	施策数
	2 飢餓をゼロに	農林水産業の推進による持続可能な食糧生産システム確保など	1
	3 すべての人に健康と福祉を	様々な主体による植樹の実施や環境に配慮した開発事業の実施など	6
	4 質の高い教育をみんなに	自然環境学習を通じたESDの推進など	22
	6 安全な水とトイレを世界中に	水に関連する生態系の保護・回復など	12
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	バイオマス資源などの再生可能エネルギーの積極活用など	4
	8 働きがいも経済成長も	自然の観光資源としての活用や様々な生態系サービスの提供など	8
	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	生態系を利用した防災・減災の推進による持続可能で強靱なインフラ整備など	14
	11 住み続けられるまちづくりを	都市緑化の推進や生態系を利用した防災・減災など	19
	12 つくる責任つかう責任	バイオマス資源などの再生可能資源の積極活用など	9
	13 気候変動に具体的な対策を	森林の適正管理による森林吸収源、バイオマス資源の積極活用など	12
	14 海の豊かさを守ろう	海洋及び沿岸の生態系保全、資源回復に向けた取組など	34
	15 陸の豊かさを守ろう	森林の適正管理や生態系の場の保全、希少種の保護、外来種対策、環境アセスメントの推進など	44
	17 パートナリシップで目標を達成しよう	団体や企業、自治会等との協働による自然環境保全活動の実施など	9

「15. 陸の豊かさを守ろう」（44 施策）

例) エコツアーの実施、自然環境保全活動支援事業、地産地消の推進、
ほたるのふるさとづくり 等

「14. 海の豊かさを守ろう」（34 施策）

例) エコツアーの実施、自然環境保全活動支援事業、曾根干潟の保全と利用、
水環境館での市民啓発 等

※28 施策がゴール 14・15 の両方に関与

⇒生物多様性（陸・海の生態系）の保全に貢献している。

「11. 住み続けられるまちづくりを」（19 施策）

例) 鳥がさえずる緑の回廊創成事業、新・海辺のマスタープランに基づく水際線の
整備、北九州市環境配慮指針の活用 等

「4. 質の高い教育をみんなに」（22 施策）

例) 各学習施設の運営、環境アクティブラーニング、環境修学旅行 等

⇒本戦略における都市緑化や環境学習等の取組がまちづくりや教育にも貢献している。